

## 729 判検事弁護士試験及第者謝恩会

〔法学新報〕第32卷11(371)号 大正11年11月6日

○判検事弁護士試験及第者謝恩会 本年度第一次判検事弁護士試験も九月二十七日の身体検査を以て愈終了し同月二十九日其及第者発表せらるる中央大学出身者にして及第せしもの判検事に於て十名弁護士に於て七十三名従来に於けると同様何れも他大学に一步を抽てたる好成绩にして及第者は勿論母校の爲め欣快措く能はざる所なり惟ふに斯くの如き好成绩を収め得たる所以のものは今茲に喋々するの要を見すと雖畢竟するに本学学風の質実剛健にして軽薄なる時代の悪思潮に侵さることなく儼然として勇往邁進すへしとの教養の本旨より生ずる当然の結果にして敢て遇然なる現象にはあらざるなり此光輝ある本学に学ひたる吾等及第者一同は聊母校並に諸先生に対する謝恩の微衷を表すべく十月七日上野精養軒に於て小宴を催したり定刻参会

するもの四十名先輩あり後輩ありと雖何れも同窓の懐しみを以て恰も百年の親交の如く互に歎ひ且つ談し和氣霽々として堂に満つ六時半宴を開き進んで「デザートコース」に入るや中村卯四郎君及第者一同を代表して謝恩の辞を述ふ之に対して理事馬場憲治博士学校側を代表して挨拶せられ尚ほ吾等の前途に対して懇切なる訓諭を賜ふ次で西川一男、阿部文二郎、草野豹一郎、吉田久、佐々木良一の諸先生より祝詞と共に慈父の如き訓示を与へられたりそれより及第者は順次に起立して氏名、生国、経歴より受験の感想、将来の方針等を述へしか何れも其経歴抱負たるや凡ならず殊に其血を湧すか如き潑瀾たる経歴を有するの士多数ありしは近時学生の風潮滔々として柔弱懶惰ならんとするのとき聊か吾人の意を強ふする所なり理事佐藤正之氏の発声にて中央大学万歳を三唱し坂井金藏氏独特の痛快なる熱弁を揮ひ次で閉会の辞を述ふ時午後九時それより一同は別室に於て休憩此間及第者一同は阿部、草野、吉田、佐々木諸講師を包圍して歓談慈父に対するか如く時に笑声堂に溢る斯くして時の移るを知らず散会せしは正に十時なりき因に同日出席者は馬場、佐藤の両理事を始めとし西川一男、阿部文次郎、草野豹一郎、吉田久、佐々木良一の諸講師及び大松教務主任にして及第者は景山収、野瀬長治、長谷川鎮雄、松園茂一、松田吉三郎、坂井金藏、瀧石政次郎、宮下巖、中野謙五、浦田仙造、奥原萬平、伊藤治助、宮武能孝、齋藤素雄、五鬼上堅磐、竹内卯一、藁谷政雄、工藤祐造、山田一郎、木原圓次、石倉源助、橋本三郎、重田休助、吉田榮一、錦織幸藏、小林峰次、松野一衛、杉

山基次、加藤元治、中村卯四郎の諸君なりき（発起人報）